

発行日 平成20年12月15日
 発行者 有限会社池田食品工場
 代表取締役 池田一夫
 ハローランチいけちゃん
 新居浜市庄内町 3-11-24
 電話 0897-33-8311
 FAX 0897-33-8319
 IP-phone 050-3537-8311
 非常時電話 0897-33-8313
 E-Mail info@ikechan.co.jp



ハローランチいけちゃん
 いけちゃん農園
 オリジナル幼稚園給食に
 関するお知らせ新聞です。

硝酸態窒素(しょうさんたいちっそ)とは

最近のほうれん草や小松菜などの色が濃くなり、食べると**エグ味**が強くなったと言われています。窒素を多く与えればそれだけ作物は青々と濃い緑色になります。なぜそうするのかって？
 それは、"緑黄色野菜は色の濃い方が栄養がありそうで消費者が喜ぶ"からなんです。

硝酸態窒素の多い野菜を茹でると**ゆで汁が黄色く**染まります。
 窒素は土壌中では硝酸態窒素として存在し作物が栄養として体内に取り込みます。成長を止められた段階（収穫時）で使い切れなかった硝酸態窒素が作物中に残ります。体内に入った硝酸は**血液中のヘモグロビンと結合し酸素欠乏症を起こしたり、毒性の高い亜硝酸ナトリウムとなり、さらに発がん性のあるニトロソアミンになったりする。**
 近年では化学肥料の使い過ぎによる**地下水の硝酸態窒素汚染**も報告されている。



新居浜聖マリア幼稚園



当社の農園担当者からイモ掘りの説明を聞いてから作業開始です。



もくもくと芋を掘っています。クラスごとに掘っているため帽子の色がそろっています。

いも掘り

菊本幼稚園



愛光幼稚園



この笑顔が全ても物語っています

今年の芋堀の注目ポイントは、**菊本幼稚園の先生方の長靴が**とても**ファッショナブル**で芋堀に来た人とは思えないほどおしゃべりでした。

思わずシャッターを押してしまいました。

芋堀を楽しむアイテムとしてはとても**GOOD**だと思います。

宮下泰典さんから技術的な指導をして頂きました。

農業班「科学的な有機農業」を学ぶ

小祝政明先生の講習会で理論的な勉強を、

のうえん新聞43号で紹介させて頂いた坂出市の宮下泰典さんの理論的な根拠となっている科学的な有機栽培を提唱し、全国各地に指導先があり、数多くの講演会や勉強会を開催されている小祝政明先生(株)ジャパンバイオファーム)の講演会を十一月十一日香川県まで行って聞いてきました。

当社農業担当者3人が参加し、科学的な有機栽培の理論的な根拠や有意性について学んできました。

植物は無機質の形で栄養を取り入れているだけではなく、**有機質の形で**体内に取り入れている。

内に取り入れている。それを理解した上で有機物の堆肥、肥料、有機物を植物の生長段階に合わせた確に施して行くと、化学肥料に頼った現在の慣行農業よりも効率的に育てることができ、最終的には多収穫となり、価格面でも慣行農業に対抗できるようになる。

そして消費者の**食の安全性と美味いものに対する嗜好性は更に強くなって行く。**すでに食の安全性に関しては、国産や残留農薬に止まらず、硝酸態窒素による環境汚染と人体への影響を危惧する消費者を対象に低硝酸態窒素の野菜を販売している所が出ている。そのレベルの安全性も求められるようになってくる。

といったことを勉強してきました。

当社でも硝酸態窒素の少ない野菜を育てるべく**硝酸測定器**を購入し、自社で収穫した野菜の硝酸態窒素を測定していくことにしました。



小祝政明先生



多収穫の有機栽培のコツを現地でご指導頂きました。

講演会よりも先の10月宮下さんの圃場を訪ね現地で具体的な方法、ポイントなどを学びました。皆毎日の作業について疑問に思っていたことの質問なので、具体的なことが多く道具や播種の日まで聞いていました。マルチの使用方法や栽培品目、施肥の時期についても指導して頂きました。

宮下さんは聞いた質問には全てノウハウを開示して頂きとても有意義な時間となりました。